

## 道徳教育の内容について

木下美紀 委員 提出資料

### ・タグ付けについて

内容項目のタグ付けについては、現場に浸透しているので、タグ付けをすすめた  
い。理由としては三つある。

#### (1) 現場に浸透していて、わかりやすいということ

教師は、タグ付けされた副読本会社の裏表紙を見て、内容の具体的像を確認し  
ている。

#### (2) 具体的目標設定にいかす（※次ページ資料参照）

その時間に学習する内容は何なのかをはっきりさせるのに役立つ。

具体的目標設定に生かすという視点である。

各教科でもそうだが、最終的に子供がどんな学習内容を理解できればいいのか  
を想定して授業を構想する。最終的に子供がどんな言葉を言ったらいいのか、ま  
た、記述すればいいのか等を明確にしておく必要がある。タグ付けをしておく  
と、わかりやすく、皆同じ具体的イメージがわく。徳目主義には留意しないといけ  
ないが。

→評価につながる

#### (3) 評価にいかす

想定した姿が見られたら、また記述されたら目標は達成されたことになる。そ  
の具体的指標となる。

# 道徳の時間の授業づくり(実践編)

それでは、具体的な授業づくりについてまとめていきたいと思います。

## 授業づくりのポイント

### □ ①目標設定 　　どんな子供に育てたいか

子供がこの時間の最後に、どのような発言をしたらいいかということをも、想定して授業をつくります。これは、他教科でも大切にしたい視点です。「こんな発言をしたら」「こう記述したら」などから、キーワードを見付けます。

例えば、思いやり、親切の大切さについて気付く学習なら、「放っておけない」「そのままにしておけない」などがキーワードとしてあげられます。これが、親切の本質にあたるものです。

### □ 指導要領解説→辞書→私たちの道徳

その姿を具体化するには、まず、学習指導要領解説書をもとに考えることが必要です。まず、自分の授業をする学年を熟読し、そして、低→中→高→中学まで系統性を見てみます。

例えば、2－(2)の思いやり・親切なら、右上図のようになります。この内容を解釈し、ねらい(目標)に具体化します。

その際、「思いやり」ということを辞書等で調べてみるとさらに詳しくなります。

さらに、『私たちの道徳』では、どんなキーワードを使っているか調べてみます。

そして、具体的に、目標にいかしていきます。目標が具体的であればあるほど、授業像が明確になります。

そして、学習中や記述に中にそのような子供の姿が見られたら、ねらいは達成できたということになります(評価につながる)。

### □ ②( )の心に響く資料の選定

資料については、資料を学ぶのではなく、資料で(を通して)学ぶということが大切です。資料としては、自分を映す鏡として、そして、自分を高める砥石として、そして、生きる指針としての道しるべとして、とらえておくことが大切です。

道徳の時間の資料の備えておく条件としては、学習指導要領解説編 p 93 (小) にあります(中学校編 p 98) が、次のことを、大切にしたいのです。

- ①教師がどれだけ資料にほれこむか→感動の中には道徳的価値が含まれる
- ②資料で何を伝えたいか→(1) 目標設定 キーワード
- ③子供の実態と合っているか

### □ ③発問の工夫 　　中心発問→補助発問

